

<近況報告> ~連絡幹事より~

田中 治（昭和49年卒）

10年前、定年を機に自分の食べる物は自分で作りたいと思い、田2枚付きのリフォーム済みの百年古民家を買った後で、農業の経験がないので草は年に3～4回刈ればOKと思っていましたが、夏には月2回草刈が必要と知り、また、田に花木、果樹を植えようと思っていたら、近所の人に「田にそんなものを植えるんじゃない...」と言われ断念。

田1枚は近所の人に貸し、もう1枚は畑にし、畑の半分はトラクターで草をすきこみ、それでも家庭菜園には広すぎますが、半分で無農薬の野菜を栽培しています。最近ではまず野菜は買うことがなくなりました。娘から野菜がおいしいと言われ、調子に乗っています。4年前より女房より野菜担当の許可がおりました。また、近所の人より、もうコメ作りがつらいので自分で作ってよ、協力するから、と言われて田を返され、仕方なく米作りを始めました。草取りの苦労はありますが、自分で作ったお米はおいしい...と自画自賛です。お米の收支は肥料分だけマイナスです。だから女房から趣味の農業と呼ばれていますが、退職して風邪一つひかなくなりました。味噌、柿酢、シイタケと自給自足の品が増えてきました。

今も私が集落で一番若く、いろいろと役が回ってきます。今年はスマホに挑戦してみようと思っています。よろしくお願ひします。



三宅 彩花（平成24年卒）



こんにちは、平成23年度卒・三宅彩花です。

昨年6月に長男を出産しました。最近は、1歳のお祝いをどうしようか、と夫と頭を悩ませています。まだまだ始まったばかりではありますが、子育ての喜びと大変さを感じ、その度に「私もこうして育ててもらったんだろうな」と改めて親に感謝と尊敬の気持ちを抱きます。

前回の懇親会で、司会を務めさせていただいた際にノンアルコールビールで過ごした理由はここにあります。体調が悪いのか、とご心配の声をいただいた方々、ありがとうございました。

本当は、慣れない「司会」という大役でとても緊張していたので、ビールを飲んで和らげたかったです。いまは子どもが寝た後にゆっくり飲んでいます。

趣味のひとつが献血です。16歳から始め、大学時代は高崎駅東口にある献血ルームへよく通いました。大学4年の4月、就活で京都へ行った時も帰りの高速バスの出発まで何時間もあったので、リクルートスーツのまま、献血をしたこともいい思い出です。妊娠・授乳期間は献血ができない為、お酒が飲めないことと同じくらい、その楽しみが無くなかったことは辛かったです。最近、献血を再開だったので、また少しづつ通い始めました。

ほかにお遍路や乗馬も趣味として楽しんでいましたので、また色々なことが落ち着いた頃に再開できたらいいなあ、と思っています。

今後は微力ながら連絡幹事として、同窓会運営のお手伝いをさせていただきます。よろしくお願ひします。



森山 秀樹（昭和61年卒）

現在、島根県松江市に住んでいます森山秀樹です。学生時代からユニーク人間でしたが、卒業後の教員生活も公務員の定年延長が間に合わなければ最後まで後わざかになりました。教員生活の最後は出雲商業に勤務していますが40年近くをここで振り返らせて頂きます。

私は大学卒業前の昭和61年、未だ就職が決まっていませんでしたが、故郷である出雲に帰って教員になろうと思っていました。しかし、採用試験では埼玉県の1次が受かっただけで島根県は1次も受かっていませんでした。こんなで島根に帰れるだろうか、と不安な日々でしたが、当時、連絡先にしていた下小塙の友人アパートのピンク電話に島根県教育委員会から電話がかかってきました。島根県西部に在る浜田商業は如何かと云う事でした。当時、県東部の出雲市に帰りたかった私は、其の後に、何の当ても無いのに、実家から通える処と断ってしまいました。数日後、出雲の近隣である平田高校の講師の採用がありました。

その夏は採用試験前にも関わらず甲子園予選を生徒と毎日、応援に行きましたが決勝で浜田商業に敗れました。採用試験は、と言えば1次試験は通りました。2次面接で教員生活での思い出は、との間に生徒と応援に行った事とだけ答えてしまったら落とされて、しました。平田高校は其の後30年間、決勝で1度も勝つ事が出来ません。しかし去年選抜に選ばれていましたがコロナで中止になり何とか夏の甲子園交流試合で初出場を果たしました。

2年目は常勤講師で出雲商業に転勤しました。そしてついに採用試験に合格しました。

3年目は、宿命の浜田商業高校に正式採用されました。当時、週末は100KM離れた出雲の実家に車で帰省していましたが、2週連続で、30KMのスピード違反で捕まってしまいました。1か月の間、免停でしたがバス通勤の後、友人に車で送り迎えして貰っていました。そして何とか6年間の勤務を勤め上げる事が出来ました。

その後、平成6年、県東部に、帰って転勤するのに松江市の特別支援学校に行きました。此處での在職中に父が車にはねられ亡くなると云う事故が起きましたが、其れを乗り越え父が亡くなる前に既に付き合っていて亡くなった後で知ったのですが遠回りの父の教え子であったらしい現在の女房と結婚するに至りました。一寸、運命的なものを感じました。

そして、それから4年後、県東部に在る安来市の情報科学高校に転勤しました。しかし、そこで宿命の先輩教師と出会うのです。其の先輩は野球部の監督もしており厳しい人でした。元来、ちゃんとほらんな私とは合わせず相当、叱責されました。しかし、その先輩教師は先に離島の隱岐の島に転勤し、私も数年後、女房の勤務地である出雲市の商業高校に勤務しました。その後やっと子供の在学地である松江市内の商業高校に転勤、出来たのも束の間、其処でも隱岐島から帰ってきた先輩教師と一緒になりました。この時、先輩は商業部長で、私も商業教員なので勤務する高校も限られていて何度も一緒になってしまいます。此處でも又、今度は教頭として隠岐に出ていきました。その後、教頭は情報科学高校で本土に帰りましたが又、松江商業高校に教頭として帰って来て今度は上司として1年間、叱責が続きました。そして何の運命か、教頭は校長として情報科学高校へ、私も同時に其方に転勤になってしまいました。我が家は子供が高3になり大学受験で家庭が大変で転勤したくなかったのですが、校長になるのと同時に私も一緒に連れていかれました。仕方なく、遠距離通勤を始めました。

一人息子は無相応にも私と同じで関東に行きたく東京を目指していて現役では無理だと思いましたがセンター試験の2日間、何とか無事、受け続けました。本郷での試験には付いて行き2日間の試験を受けました。しかし、現役では受かる事が出来ず、浪人して少しでも成長できればと浪人させました。浪人時のセンター試験の得点が現役の時より1点でも成長していれば東京に再チャレンジして良いと約束していたのが、まさに1点だけ前年よりアップして居ました。本郷に3日間、泊まりこんで個別試験も合格する事が出来ました。（次ページへ続きます）

(森山さんの続き)

子供が東京に合格すると、校長は今までにも増して無理難題を押付けてきました。生徒が解く様な問題を宿題と称して毎日プリントで大量に与え続け、此れもできないなら御前は、内の職場には要らない人間だと罵られ、其れを校内で後輩に言い振らされました。

しかし何とか騙し騙し出勤を続け1学期を終えました。夏休みになると出勤日も減るので少し症状も改善して2学期に頑張ろうかなと思える様になりました。

しかし2学期に成ると、パワハラは更に酷くなり10月の3連休明けにはいよいよ出勤できないだろうと当時、痔瘡を患っていたので女房と相談し手術で入院する事にしました。

10月の3連休からは休み続けると決めていました。入院中の或る日、新聞で中央省庁の障害者雇用水増し問題にかかわる当該年度の緊急雇用が有る事を知りました。校長は年度末には退職するという事は分って居たのですが、自分は、其の儘、学校に勤め続けるのは難しいようになって居たので採用試験を受けようと思いました。しかし、受験勉強後も、矢張り学校には行き辛くなりました。同じ病気では1か月以上有給で休む事が出来ず、管理職に適応障害と伝え、年内は休みました。

冬休みが明けても出勤出来そうに無く女房と相談し今度は内痔核の手術で入院しました。

中央省庁公務員試験を1月末に受けに行き2月に一次合格通知を受け取り、少し自信が出て来たので、2月から勤務を復活させました。勤め辛かったのですが、3月の省庁面接に向け勤めながら準備を進めました。

3月1日、卒業式が終わり其の後、10以上の中央省庁を東京に受けに行きましたが年齢のせいか全て不採用でした。その間、3年前から校長が「お前は、わしの退職みやげに、わしと同時に3年で此の学校から出て貰う」と言い続けており入院中にも希望で無いの出身地への希望を出して良いかと言われ、無理矢理、転勤希望を出されて居ました。又、「転勤希望が通るなら、一度は、もう一度勤務しておかないと駄目だぞ?」と言われていた事もあり出勤していました。しかし、そんな中での、その様な言動は、私にとっては、パワハラの極みでありましたし、生き辛さ、勤め辛さは変わりませんでした。

そんな中、東京の中央省庁に勤められないと決った時、出雲商業への転勤が決りました。

今は、出身地の出雲商業に勤務し、遠距離通勤になるため私一人出雲の実家の実母の元から通い、週末だけ女房が暮らす松江に帰っています。実家にもどつてみると母は、私の交通事故事故後のPTSDの影響か物忘れも多く成了ようですが、毎日、私の弁当を作ってくれて居ます。20年以上一人暮らしをして居るので物忘れが有るのは仕方ないので結果的に一緒に実家で暮らせて良かったと思っています。

私も、あと少しで定年退職ですが、定年前に波乱万丈の教員生活を振り返る機会を与えて頂くことができて、良かったです。そして、地元の中国地方、島根県の教育に少しでも貢献できて良かったです。今後も、コロナ禍で大変ですが、1日も早い中国地方での終息を祈りつつ、引き続き自分も教育界に貢献して、いきたいです。

中山 忍（平成6年卒）



この度、連絡幹事を仰せつかりました、中山と申します。

商業科教員をしておりますが、しばらく離れていた職場に戻る形となり、いきなり「生徒指導部主事」に配置され、校長と一触即発の日々を送っています（恥）。人間ができていないな、と思うこともあります。少し、気楽に人生を送ろうと思います（笑）。

よろしくお願いします。

鹿紫雲 隆（平成12年卒）



広島支部連絡幹事（山口地区）に任命されました鹿紫雲（かしも）です。2000年に高経大を卒業した地域政策学部1期生です。早いもので卒業から21年経ちました。卒業後就職した旅客運送会社を数年前に退職し、現在は実家を拠点に軽貨物運送業を営んでいます。前職や在学中のアルバイト（貸切バス車掌）の知識や経験が今の仕事にも大いに役立っています。

私は子供の頃から鉄道やバスなどの乗り物に乗るのが大好きでした。皆様御存じのとおり母校のある高崎の地は交通の要衝であり、帰省などで出掛ける度に行程を考えるのは楽しいものでした。在学中にはまだまだ夜行列車が多く残っており“能登”や“ちくま”等にはお世話になったものです。長野オリンピックも開催され、“横軽”的確冰峠から新幹線に移り変わる時代の変化を経験したのも思い出です。

現在の運送業では、月に1～2回程度長距離の仕事があります。時々宮城県行きの仕事があり、5月に行ってきました。経路は自由に選べる為、往路は北陸道回りで、復路は東北道～北関東道～関越道を走行してみました。北関東道の群馬県区間を走るのは2度目でしたが、前回は真夜中だったので、上毛三山を眺めながら走破するのは今回が初となり感慨深いものがありました。

最近は時間的なゆとりが増えたことで居住地域のコミュニティ組織に関わるようになり、大学で学んだ経験を活かす場になっています。今後とも宜しくお願ひいたします。

岩田 亨唯（平成7年卒）



このたび、連絡幹事を拝命致しました平成7年卒の岩田と申します。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

さて、私は食協（株）に入社以来、食品を扱いその中でも日本人の主食である『お米』に関わり、仕事に邁進して参りました。生産者、JA・全農をはじめとした産地、そして流通に携わる多くの関係する方々に出会い、支えて頂きながらあつという間に20数年が経ちました。皆様方には、『感謝、感謝』の気持ちでいっぱいです。

実は、今年は会社創立70周年を迎えてます。現在は、来春に向けて新たに精米工場や物流倉庫を東広島市に新設する計画を進めています。会社にとっても、将来を見据えた大きな変化の一年であり、私もこれまで以上に力が入っています。私生活では、家族にも恵まれて日々、忙しい中にも充実した生活を送っています。今は、趣味として2～3年前から我が家の小さな庭で家庭菜園を楽しんでいます。今年も夏野菜（トマトや胡瓜）を植えたばかりです。食卓にならぶシーンをイメージしながら、今からその日を待ち望んでいます…。

それから、猛暑をしのぐために、はじめてグリーンカーテンなるものにチャレンジしました。上手くいけば良いのですが、皆さまからも何か良い暑さ対策がございましたら、ご紹介ください…。

昨年から世界中に感染拡大しているコロナ禍において、生活環境が大きく変わり皆様方も大変な思いでお過ごしのことかと思いますが、皆様方のご健康とますますのご活躍を祈念し、自己紹介・近況のご報告を含めご挨拶とさせていただきます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

<編集後記> 連絡幹事 山中より。

今回は畠山さんからご依頼をいただき、編集を務めました。ご協力くださった連絡幹事の皆様、本当にありがとうございました。至らない点があると思いますが、お許しください。また、同窓会の皆様が今回の原稿をご覧になられて、「**自分も近況報告を載せてみたい**」と思う方がおられましたら、私、山中或いは畠山宛てに是非、ご一報ください。